令和５年度　技術開発課題概要一覧表

中部森林管理局

NO	課　題　名	新・継	開発箇所	担当署等	開発期間	目　　的
1	湿性ポドゾル地帯の更新法 ー三浦・助六実験林ー	新規	木曽署	木曽署 木曽森林ふれあい推進センター 技術普及課 信州大学	R5～R14	せき悪な土壌（湿性ポドゾル）地帯での天然更新による温帯性針葉樹林の復元技術の確立に向け、「天然更新」の初期段階に引き続き「森林成立」の初期段階の林分構成とその遷移動向を見ていくために、長期の固定試験地を設定しデータの蓄積を行う。また、ササ生地での効果的かつ確実なヒノキ天然更新技術の確立に向けて、薬剤散布と筋刈りを組み合わせた更新補助作業試験を継続し、更新が進まない条件の悪い箇所における天然更新方法の開発を行う。
2	カラマツの大苗植栽による下刈省力化の検討	継続	東信署	東信署 森林整備課 技術普及課 長野県林業総合センター	R3～R6	カラマツの低密度ならびに大苗植栽による成長の比較を行うとともに、下刈回数の削減を検討し、植栽から保育までの費用低減や省力化の可能性を検討する。
3	多様性に配慮した皆伐初期保育方法の検証	継続	中信署外	中信署 東信署 愛知所 森林整備課 技術普及課	R4～R8	人工造林地において、多様性を図るため、植栽木と併せて天然更新による広葉樹等を活用し混交林へと育成するにあたり、造林木の植栽方法や保育方法により、低コストで確実な更新の初期保育手法について検証を行う。
4	コウヨウザンの成長速度と生育適地の把握及び下刈省略による初期保育技術の検討	継続	岐阜署	森林技術・支援センター 岐阜県森林研究所 森林総合研究所　林木育種センター	R4～R9	スギと同程度の強度を有し比較的短期間で生長・収穫できるとされる「コウヨウザン」については、岐阜県内では植栽事例のある標高400m程度未満の暖温帯域が生育に適するとされているが、高標高（500～1000m）の温帯域における生長適正について検証を行う。併せて再造林の低コストに向けた検証を行う。
5	防護柵「ブロックディフェンス」を活用した新たな捕獲方法	継続	南信署	南信署 森林整備課 技術普及課	R4～R6	搬出作業路をニホンジカが利用したところから、作業路を遮断せずブロック状に防護柵を設置したところ、シカが引き続き作業路を利用していることが確認された。シカの通り道が限定されたことで、効率的な捕獲が期待されることから防護柵間の通路での捕獲率向上に取り組む。